

「上下水道に関する言葉の起源」

山野 寿男

一 講師のこと

① 紹介（司会から）

山野さんは、はるばる大阪から見えました。今日は「上下水道に関する言葉の起源」についてお話しいただきます。山野さんは大阪市にお勤めでした。現役の頃から下水や川の調査をしておられ、多くの、記事を執筆されています。下水文化研究会の叢書で「近世三都の水事情¹」を執筆されました。

現在はNPO法人「水澄」の顧問をされており、また「水道公論」に、「近代都市の衛生と上下水道²」という連載をされています。

② 挨拶

こんばんは。山野です。平成八年に大阪市を退職し、その後、「上下水道に関する言葉の起源」について調べてきました。大阪の下水は太閤秀吉の時代から始まったというのですが、下水や背割下水は文献で調べても「下水」の「下」の字もありません。

大阪には江戸のような上水がなかったので、上水という言葉はありませんでした。あるのは古代・中世からの「水道」という言葉です。これは「水の通り道」という意味の河川、運河などを指しています。秀吉時代からの「下水」も水道という言葉しかないのです。

ちなみに「背割下水」という表現は昭和四〇年

代に出てきた新しい言葉です。

「水道」という言葉の成り立ちを二十年前くらい調べているのですが、二〇〇一年の研究発表会で成果を発表させていただきました³。その後、『水道』に書いてみないかと中西さん（元水道新聞社）に言われ、改めて調べてみました⁴。その後、一冊の冊子（私家版）⁵にまとめてみました。

私は下水道が専門でしたが、飲み水、河川、地下水などについても調べてみました。例えば二〇〇五年に大阪で開かれた下水文化研究発表会では水の問題が多かった河内平野での用排水について「河内平野における恵水対策」という内容で発表しました。昨年から誌上参加が許されたので関東平野と新潟平野と大阪平野について調べ「沖積平野における恵水対策」を発表しました。

ここでは、水の言葉がどのように日本語化し、どのようにして日本語として生まれたかについてお話しします。

二 本論に入る前に

多少理解のために予備知識をお話します。

私の調べた内容が正しいかというと、正しいものはつきりしないもの、誤っているものが混じっていますが、できるだけだけの情報をお話します。

① 「水道」の多彩な世界

「水道」という言葉の履歴を訪ね、その多彩な世界につきまして少しお話しします。水道には次の意味があります。

(イ)「河川や用水路などの水の流れる道」の意味では紀元前九一年ごろの「史記」に記述があります。

(ロ)「上水道」という意味の水道は天正日記(1590～1614年)にあり、「江戸町水道の事」(慶長見聞録集 1590年)に江戸の上水としての水道が出ています。

(ハ)「鉱山における坑道の排水路」の意味もあります。

(三)「海や湖の水面が狭くなったところ」を水道といっています。この初出はまだ分かりません。

(ホ)「生体の喉、腹、頭の水の通路」の水道もあり、『広辞苑』で「中脳水道」を見つけたときは驚きました。他の辞書でもツボの水道、鷹(鳥)の水道(喉)を偶然見つけました。

② 江戸と大坂の用語の違い

江戸と大坂とは「上下水道」用語に違いがあります。その理由は、近世の大坂(大坂)には上水は存在しなかったからです。

江戸と大坂ではどのような言葉を使っていたかについての対比をしてみました。

・江戸：水道、上水道、上水 ↓ 大坂は上水道に関する用語無し

・江戸：下水道、下水石垣、溝 ↓ 大坂では水道、水道石垣、溝

③ 辞書の「水」用語

辞書からみた「水」の付く熟語ですが、水と水についてどのような表現があるか調べま

した。「日本国語大辞典」、「諸橋漢和大辞典」、「角川古語大辞典」、「オックスフォード英語辞典」に当りました。

④ 余話四題

余話として、「水」という言葉の思い入れについてお話しします。

(イ) 活性汚泥法はイギリスで一九一四年(大正三年)の論文に発表され、日本では「促進汚泥法」として一九二一年に紹介され、一九三三年に活性汚泥法と命名されました。

(ロ)「沈澄池(ちんちようち)」という言葉は明治二〇年に通水した横浜水道の三井取入所の沈殿池を沈澄池と命名したことに始まります。いまでも大阪市の下水道では使っています。

(ハ) 明治二四年に発刊された大槻文彦の「言海」にはいろいろな語源があります。昭和七、一〇年の増訂版「大言海」を古本で手に入れ、これから多くのことを調べました。

(三) 大野晋氏は日本語の起源がタミル語に由来するという説を唱えています。一方白川静氏の「字訓」ではこれを否定しています。しかし調べてみると私は大野氏の意見のほうが論理性があると思います。

三 本論(その一)

…上下水道の言葉の起源

上下水道の言葉の起源についてお話しします。全体を八種類に分けて年表(次ページ)にまとめました。これは「言葉の歩み」として、意味、漢語の有無、文献に現れた年代を示したものです。なお、表中の△印は推測、?印は不明の意味です。

①水道

上下水道の意味は天正一八年(1590年)の「天正日記」にあります。これは偽書であるという歴史家もいます。入念に調べる必要はありません。慶長一九年(1614年)の「慶長見聞集」

に「江戸町水道の事」の見出しと記事があります。

歴史地名大辞典を開けてみますと水道という名を持つ町はまだたくさん残っています。

②上水

漢語の「上水」には飲み水の意味はありません。日本の上水は「国字」です。家光が井の頭池までいった頃か、神田上水が引かれた頃から「上水」の始まりかと思っています。

③下水

下水の言葉は中世の文明七年(1475年)、「茶道具(鎌、風呂、下水(ゲスイ)、水指、杓)」が最初でしょうか。中国語でも下水という言葉はありますが、汚水のことではなく、「川に水を流したり」、「船で下る」といった意味です。

天文一七年(1548年)「運歩色葉集」と言う室町時代の辞書には「下水(ゲスイ)」があり、汚水の意味です。

天文一三年(1544年)「茶具備討集」には「水例(みずいぼし) 水覆 下水」があります。

[年表] 「水」言葉のあゆみ

		710	1192	1603	1868	2010
区分	漢語 (中国語)	古代	中世	近世	近現代	
[水道]・水の流れる道	○	○			△	----
・用排水路	?		?		△	
・上下水道	×			○ 1614	△	△
・鉱山の排水路	×			○ 1691	△	----
・海や湖の水道	×			△		○
・生体内の水道	×			?		○
[上水]・飲料水の上水	×(漢語は別意)			○		○
・構造物の上水	×			○	△	----
[下水]・茶道の下水	×(漢語は別意)		○ 1475			?
・汚水の下水	×		○ 1548			○
・構造物の下水	×			○ 1648		△
[上下水道]・上水道	×			○ 1678		○
・下水道	×			○ 1657		○
[用排水]・用水	○	○ 1188				○
・排水	○		~ 1215	△ 1752		○
[悪水]・飲めない水	○					△
・停滞する水	×			○ 1588		△
[水の清濁]・清水	○	○				○
・浄水	○	○				○
・濁水	○			△ 1697		○
・汚水	○			△ 1697		○
・廃水	×				?	○
[構造物]・溝・渠・樋	○	○				○
・どぶ	—			△ 1763		○
・せせなげ	—		○ 1241			△

永祿期(1558-69年)「正宗」には「滴水 下水(ゲスイ)」、天正七年(1579年)「医方大成論抄」、慶長二年(1597年)「易林節用」にも「下水(ゲスイ)」という記述があります。

岩波から出ている「日葡辞書」(慶長八年、1603年)は京都から西の言葉を集めた貴重な辞書です。ここに「下水(ゲスイ)」は「茶の湯で中に水をいぼしいれるのに使う或る器。ただし、より正しくは、この器の中に入っている水の意に取られる。」と説明されています。器に捨てられた水は不要になった水であり、下水に通じます。

このようにゲスイは日本で生まれた言葉です。

④ 悪水

悪水は中国の文献にあり、「天、悪水をふらす。」と出ます。その後の悪水は「飲めない水」や「いらぬ水」及び「作物の生育を阻害する水」という意味になりました。天正一十六年(1588年)淀川(摂津)で農地に滞留して作物の生育

を阻害する水を除くために上流の悪水を下流に流したという表現が文献にあります。「飲めない水」という意味の悪水が中世には数多くありますが、現在は使われていません。近現代の東京に「玉川上水は水が悪く(悪水) なって好ましくない。」とか、本州製紙の工場廃水事件に悪水という表現が出てきます。

⑤ 用排水など

「用水・排水、清水、浄水・濁水」につきましては、「用水」は文治四年(1188年)「吾妻鏡」に、「排水」は宝暦二年(1752年)「堰堤秘書」に、「清水」は古事記、万葉集に記述があります。

「浄水」は弘仁三年—天長元年(819-824年)「日本霊異記」にあります。

「溝、渠、樋」は「記紀や万葉集」に表れています。「せせなげ」という言葉は二四一年頃に生まれ、全国に拡大してゆきます。「どぶ」は「日葡辞書」にはなく、一七六三年(宝暦一三年)に表れました。

四 本論その二：「水の漢字」の解説

① 中国語の発音

中国語の発音が日本に入ったのは「呉音」は四六世紀の中国南朝の発音を母体とし主に仏教用語に使われました。「漢音」は隋と唐の時代の長安の発音、「唐音」は平安末期から鎌倉初期に伝えられた江南地方の字音です。

発音についてお話ししますと、水道は呉音では「スイダウ」、漢音では「スイタオ」と読まれ、これらの発音が現在まで引き継がれています。

現在の中国語は一九五七年に漢語ピン音方案が決定され、ローマ字表記が実施されました。

中国語のローマ字表記は、岩波の「中国語辞典」

音節表に、母音表は二六文字、声母表は子音で二一種、いん母表は三五種（一覽表にある）、声調符号は四種、あげられています。

② 漢語と日本語

上水は漢語ピン音で「シャンシュイ」、下水は「シイアシユイ」と読み、なぜグスイと読むの

か不明です。

悪水の悪は「オ」であり、アクスイは日本流か。

清水は「チンスイ」、汚水は「ウシュイ」、排水は「パイシュイ」、溝は「コウ」です。暗渠は「アンチュイ」、大便は「ターピエン」、小便は「シャオピエン」、尿は「ニャオ」、糞は「フエン」などです。これらの発音は現在まで残っています。

③ 国字

中国から伝来した漢字ではなく、日本で作られた漢字を「国字」といいます。上水や下水は中国でも使われた漢字ですが、その意味は日本とは違います。日本では独自の意味で使われています。

④ 水の言葉の出自

次のようにまとめてみました。

・中国語を移入・・・水道、用水、排水、清水、浄水、濁水、汚水、く渠、溝

・国字として案出・・・上水、下水、上水道、下水道、悪水、廃水、井路

・和語として成立・・・せせなげ、どぶ、みぞ

漢字 六書	字源	字音 漢音/呉音	漢語拼音 ウエード式 字体発音 ローマ字	用例
水 象形	水が流れている形	スイ/スイ (スキ/スキ)	水 shuǐ (シグエイ) shui	水泥 shuǐní
道 会意	辵(道を歩く)と首(人)の合字。人の行くところの意。	トウ/ドウ (タウ/ダウ)	道 dào (タオ) dao	道路 dàolù
上 指事	横線を仕切として上方に。	ショウ/ジョウ (シャウ/ジャウ)	上 shàng (シアン) shang	上下 shàngxià
下 指事	横線を仕切として下方に。	カ/ゲ	下 xià (シア) xia	地下 dìxià
用 会意	ト(占い)と中との合字。 占い中れば実施→用いる意。	ヨウ/ユウ	用 yòng (ユオン) yung	用水 yòngshuǐ
排 形声	才+非(背を向けて左右に開く形)→手で左右に分ける。	ハイ/バイ	排 pái (バイ) pāi	排水 pǎishuǐ
惡 形声	心+巫(墓室の象形、そこに臨んだ時の心)→いまわしいの意。	アク/アク *オ(ヲ)/ウ	惡 è (ヲ) e *惡 wu (ウ)	惡人 èrén
清 形声	音符の青は澄み切っている意	セイ/ショウ (シャウ)	清 qīng (ちん) ching	清泉 qīngquán
淨 形声	冫(水)+争。	セイ/ジョウ (ジャウ)	淨 jìng (チン) ching	淨水 jìngshuǐ
汚 形声	冫+汚。くぼみにたまった水で、けがれの意。	オ(ヲ)/ウ	汚 wu (ウ) wu	汚点 wūdiǎn
濁 形声	冫+蜀(不快ないも虫の意)。不快な水、にごりの意。	タク/ジョク ダクは慣用音	浊 zhuó (チョウ) cho (チョウ)	浊酒 zhuójiǔ
廢 形声	广+發(敝に通じ、やぶれる意)→すたれる意	ハイ/ハイ	廢 fèi (フエイ) fei	废品 fěipǐn
溝 形声	冫+溝(組合わせる意)。人工的に水路を組合わせる。	コウ/コウ	沟 gōu (コウ) kou	沟渠 gōuqú
渠 形声	音符のクは定規の意。定規をあてて人工的に作った溝。	キョ/ゴ	渠 qú (チイ) chú	暗沟(渠) àngōu
樋 形声	木+通(国字)、「とい」の意。	—	(通 tōng) (トウ) tóng	通路 tōnglù

【補記】・漢語拼音およびカナとローマ字は「漢語林」(1987年)による。

・カタカナは無気音、ひらがなは有気音を示す。*da→タ、ga→カ、ji→チ、ba→パ。

(i) 水道

水道という言葉は古い言葉です。上水を引く水路も下水を排除する水路も水道と言っていました。が、神田上水、玉川上水が普及すると水道は上水の意味になります。一方、上水を持たなかった大坂では、水道は古来の意味で使われ、幕末を迎えました。

近代の衛生工事として「上水の供給、下水の排除」が要請され区別されるようになりました。一八九〇年の水道条例、一九〇〇年の下水道法でそれぞれの用語が確定しました。

(ii) 上水

上水は国字です。漢語の上水には飲み水の意味はありません。

一五四五年に「小田原早川上水」という表現があります。現地を訪ねてみますと、用水を引くのが主であり、「上水」の名称は後世になってつけられたものでしょう。

「飲み水」の「上水」はやはり江戸での上水と

いう表現が最も古いのではないかと思います。

(iii) 下水

漢語の下水は「かすい」と読み、汚水のことではなく、川に水を流したり、船で下るという意味です。日本で汚水としての下水の意味に使われたのは慶長八年(1603年)の「日葡辞書」に出ます。ように茶の湯で不用となつて捨てられる水を指すことから、下水が生まれたものと思います。ですから『下水』は日本で案出された和製漢字であり、国字です。

歴史的には最初に「下水」が出てきて次に「上水」が出てきました。

近世の下水について触れますと

(イ)「甲陽軍艦」元和の頃(1615-23年)武田信玄のことを書いた部分に、「御風呂屋のげすいにて、不浄を流(す)」という表現があります。

(ロ)慶安元年(1648年)江戸町触に下水が使われています。下水には汚水と溝の二つの意味があり、町触では溝の意味に使われました。

次に下水は「ゲ＋スイ」という説と「ゲス（肥料）＋イ（井）」という説があります。下水の方言を分解しますと「ゲ＋スイ」が殆どです。なお、一九〇〇年の旧下水道法では下水に尿尿は入りません。初めて下水に尿尿が入ったのは大正十一年に通水した三河島汚水処分工場であり、地方長官の権限で下水に尿尿を入れたことが始まりです。永井荷風の「日和下駄」（大正四年）に尿尿などが入らなかった下水は「芝の桜川、根津の藍染川」などと「名のみ溝渠、もしくは下水」と表現されています。

（iv）悪水

大阪平野の淀川中流右岸が低湿地であり、天正十六年（1588年）に「農地の滞留水を排除するために交わされた文書」に悪水が出ておりこれが最初であると思います。

関東平野、大阪平野、新潟平野についての悪水について調べ、「沖積平野における悪水対策⁷」を一九九九年の研究発表会に報告しましたので、覧

ください。

五 質疑

Q：「小田原早川上水」は上水ではないという表現はおかしいのではないかと。

A：現地を見たり、歴史書を調べたりして、当初は用水として引かれたが、近世に城下町ができ、水道が引かれた頃から上水になったと思います。

Q：「高架水道」の意味はおかしいのではないかと。

A：飲み水として引かれた高架式の水道であり、古代ローマ水道のイメージです。

Q：今回のデータをどのように研究に生かしてゆくのか。

A：内容について確実、不確実、不明、誤りの四つに分類して考えてほしいと思っています。

1 山野寿男、「近世三都の水事情（大坂、江戸、名

- 古屋」下水文化叢書、日本下水文化研究会
- 2 山野寿男、「近代都市の衛生と上下水道」、「水道公論」2009.12～2010.9.
- 3 山野寿男、「言葉『水道』を尋ねて」日本下水文化研究発表会 2001
- 4 山野寿男、「言葉『水道』を尋ねて」『水道』、全国簡易水道協議会、2007.10 - 2008.2
- 5 山野寿男、「言葉『水道』を尋ねて」（私家版）2008.3
- 6 山野寿男、「河内平野における悪水対策」日本下水文化研究発表会 2005
- 7 山野寿男、「沖積対策における悪水対策」日本下水文化研究発表会、2009